

AI画像認識・AI数値解析・AI音声認識などなど

モノづくり現場で効果を上げる AIの使い方と適用方法

～実際にやってみてわかった!モノづくり現場でAIを使うための10の押えどころ

東京会場 日時 2019年 2月 15日(金) 10:00~17:00

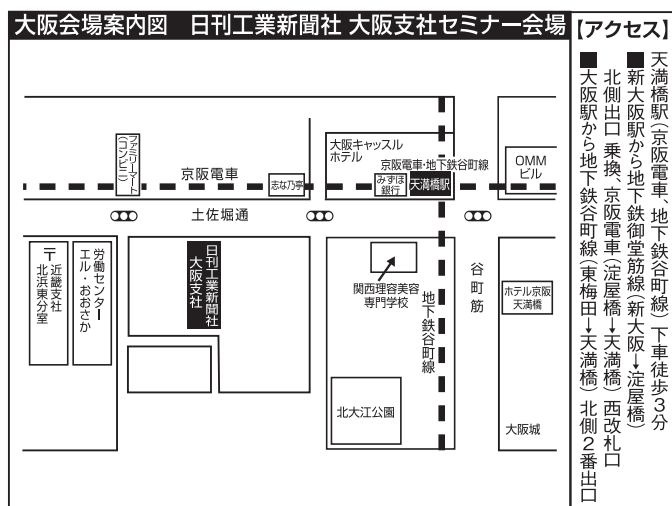
大阪会場 日時 2019年 3月 22日(金) 10:00~17:00

会場 日刊工業新聞社 東京本社 セミナールーム
東京都中央区日本橋小網町 14-1 (住生日本橋小網町ビル)

会場 日刊工業新聞社 大阪支社 セミナー会場
大阪市中央区北浜東 2-16

受講料 43,200円(資料、消費税込)
*1社複数人数で参加の場合、2人目より10%割引いたします(38,880円)

主催 日刊工業新聞社



●申し込み方法

申込書を郵送またはFAXにてお申し込みください。申し込み受付後、受講票と請求書をお送りいたします。受講料は銀行振り込みにて開催日までに必ずお支払いください。なお、お支払い済みの受講料はご返金できかねますので、ご了承ください。振込手数料は貴社でご負担ください。

●申込先 大阪 日刊工業新聞社 大阪支社 事業出版部 セミナー係

〒540-0031 大阪市中央区北浜東2-16
TEL 06 (6946) 3382 FAX 06 (6946) 3389
seminar-osaka@media.nikkan.co.jp
http://www.nikkan.co.jp

キリトリセン

受講申込書		モノづくりAI (2/15 東京) (3/22 大阪) ※○印を記入してください。お申し込みは FAX 06-6946-3389	
■受講料: 43,200円(資料、消費税込) *1社複数人数で参加の場合、2人目より10%割引いたします(38,880円)		※振込手数料は貴社にてご負担ください。	
会社名		業種	
氏名	フリガナ _____ 部署・役職 _____	TEL:	
所在地	〒 _____	FAX:	
E-mail: _____		※今後、E-mailによるご案内を希望しない方は <input type="checkbox"/> チェックをしてください。	

※お申込み受付後、受講票ならびに請求書をお送りいたします。
※一度お振込みいただいた受講料につきましては、ご返金できかねますのでご了承ください。
個人情報の取り扱いについて
ご登録いただいた情報は日刊工業新聞社が細心の注意を払い、展示会・セミナー・サービス等、各種ご案内を送らせていただくことを目的に利用させていただきます。
なお、宛先変更・配信停止をご希望の際は右記までご連絡ください。【ご連絡先】日刊工業サービスセンター 情報事業部 nkmail01@nikkans.co.jp

開催主旨

ここ数年、AI (Artificial Intelligence、人工知能) の産業応用が急速に進展しています。劇的な認識率の向上をもたらしたAI分野を発展させたのが、脳の働きからヒントを得た学習手法である「Deep Learning (ディープラーニング)」のアルゴリズムです。「TensorFlow (テンソルフロー)」などのライブラリの登場により、画像認識や音声認識の利用数が拡大しています。

しかしながら、モノづくり現場ではAIは「難しい」「費用が高い」というイメージが強く、導入が遅れています。

例えば、AI画像認識で異物を検知しようとしたら、どのような画像データを準備すればよいのか…?

AI数値解析で需要予測をしようとしたら、どのような数値データを準備すればよいのか…?

AI音声認識でデータを音声入力しようとしたら、どのような音声AIを選べばよいのか…? という具合に。

“使えないAI”を回避するためには、AIリテラシーをきちんと身につけ、正しく運用することが求められます。

本講座は、AI画像認識・AI数値解析・AI音声認識のモノづくり現場への適用を試みた講師が体得したことを解説。“AI素人の講師”だからわかった「10の押えどころ」を通じて、何に適用するか、自社に合致したAIをどう選択し、どのように学習させるかなど、モノづくり現場への適用法を、AI異物検知やデータの音声入力の適用例を交えながら紹介します。

講師

株式会社 Rond・アプリウェアサービス **大谷みさお** 氏

【略歴】 日立東京エレクトロニクスに入社し、半導体製造部門に配属。1998年、Rond・アプリウェアサービスに入社。組立・プロセス産業を中心にコンサルティング業務に当たり、23社で成果を上げる。最近では、AR (拡張現実感) とスマートグラス融合したボカミス対策ツールの開発を手がけるなどIoT (Internet of Things) を活用した先進的なカイゼン活動に取り組む。現場作業者と一体になって取り組む“現場実践型”のコンサルティングを信条とする。

プログラム

わかったこと1：用語を知らないと何も始まらない！

- 知っておくべきIoTの基礎知識
- 知っておくべきAIの基礎知識

わかったこと2：どんなことができるのかを知らないと取り組めない！

- モノづくりには24の適応可能システムがある
- 身近になったAIの具体例

わかったこと3：どんな効果が得られるのかを知らないと始まらない！

- ものづくりIoTを導入することで得られる効果
- AI・IoTで刈り取れるモノづくり現場のロスとは

わかったこと4：AI・IoTでも意外とできないことも多い！

- IoTの導入前にやるべきことがある

わかったこと5：自分は何をしたいか決まっていないと役にたたない！

- 実現したい姿を描く
- いま困っていること (誤判定の多い自動外観検査、ミスの多い手作業、判断に迷う作業など)

わかったこと6：どのAIを選ぶ選択基準を持たないと迷う！

- 自分の工場にあったAIを選ぶ
- AIフレームワークの種類と特長
- AIプラットフォームの種類と特長

わかったこと7：学習させるデータの質が重要！

- 現状のデータと必要なデータのギャップ
- 必要なデータの準備ポイント

わかったこと8：AIリテラシーが身につけていないと使えない！

- ものづくり現場で必要となるAIリテラシーとは
- AIリテラシーの種類と特徴 (画像認識、数値解析、検知機能、機械学習)
- AIリテラシーの習得
- 画像認識の基本的な使い方

わかったこと9：やったことが知識となる！

- 画像認識による自動外観検査
- 音声認識によるデータ自動入力

わかったこと10：人材を育成しないと余計なお金がかかる！

- 費用対効果
- ものづくりAIを現場で生かすためには